

記者資料提供 (2019年12月25日)

デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) 大泉・丸山

TEL | 078-325-2235 FAX | 078-325-2230 E-mail | info@kiito.jp



City of Design
KOBE

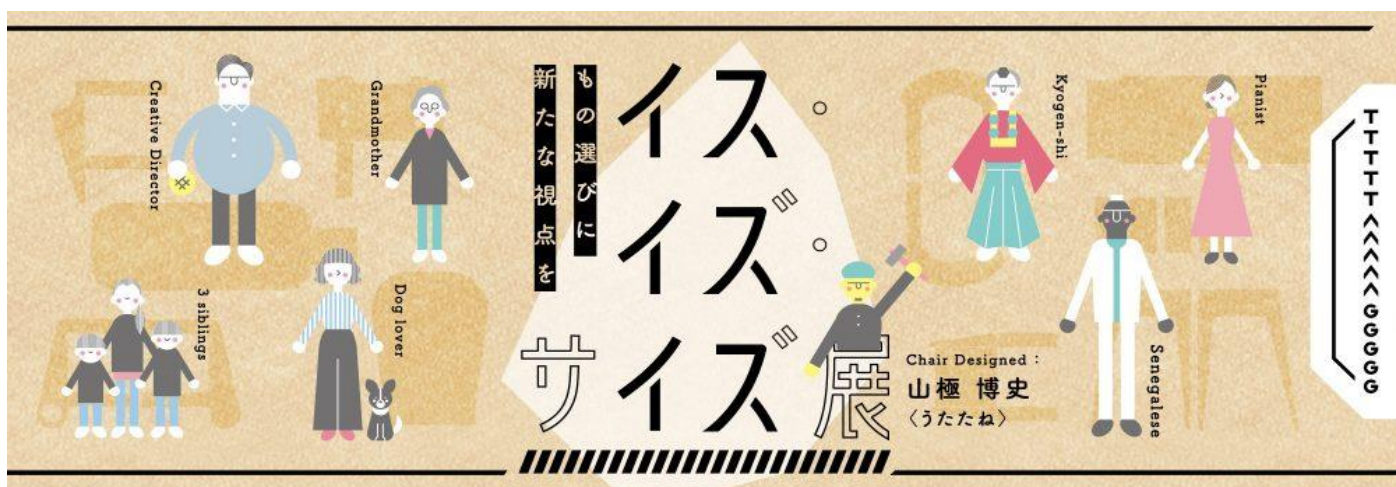
United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008

KIITO: もの選びの新たな視点を提案する展覧会 イス・イズ・サイズ展 開催!

神戸市の都市戦略「デザイン都市・神戸」の拠点施設である「デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO)」では、創造性を育むさまざまな活動に取り組んでいます。

この取り組みの一環として、次のとおりイベントを行いますので、ぜひご参加ください。



デザイン・クリエイティブセンター神戸 (KIITO) では、自分に合ったサイズの椅子について選ぶ視点を提案する展覧会「イス・イズ・サイズ展 —もの選びに、新たな視点を。」を開催します。服や靴に一人ひとりに合った「サイズ」があるように、イスにもそれぞれの身体に合った「サイズ」が存在します。イスには、身長や体重などの身体的な違い、仕事や食事、リラックスする時など使う場面や目的によって適したデザインがあり、本来のつくられた目的以外の使い方をすることは、ぶかぶかの靴を履いて歩いていることと同じです。そのような使い方は、腰痛などの一因になるなど身体的影響をおよぼすこともあります。イスの「サイズ」は、私たちにとって実はとても大切なものなのです。しかし、自分に合ったイスのサイズを知っている人はそう多くはありません。本展では、高さの異なるイスに座り「サイズ」の違いを実際に体験できるほか、さまざまなモデルの方に協力をいただき、〈体格の大きい人が長時間のデスクワークで使うイス〉、〈3人の子供たちのためのイス〉、〈狂言師が舞台で使うイス〉、〈高齢女性が長時間作業をしても疲れにくいイス〉、〈190cm近くある長身の外国人が使うイス〉、〈ピアニストが演奏で使うイス〉、〈愛犬家が犬と一緒に暮らすイス〉といったシーンにあわせて製作した7種類のイスをプロセスとともに展示します。展覧会を通して、自分の生活に合った家具があることを知り、モノづくりを行う作り手の思いや技術に触れる場をつくり、これからの、もの選びに対する新しい視点を提案します。

開催概要

タイトル: イス・イズ・サイズ展 —もの選びに、新たな視点を。

日時: 2020年3月6日(金)~29日(日) 11:00~19:00 ※月曜休館

場所: KIITO 1F ギャラリーB 参加: 入場無料

主催: デザイン・クリエイティブセンター神戸、うたたね

制作: 山極博史、杉島郁子(うたたね) ディレクション: 吉田貴紀・栗原里菜(BYTHREE)、田中裕一(かたちラボ)

お問合せ | デザイン・クリエイティブセンター神戸 広報担当 住所 | 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4

開館時間 | 9:00~21:00 入館料無料 休館日 | 月曜日(祝日または振替休日の場合はその翌日) WEB | <http://kiito.jp/>

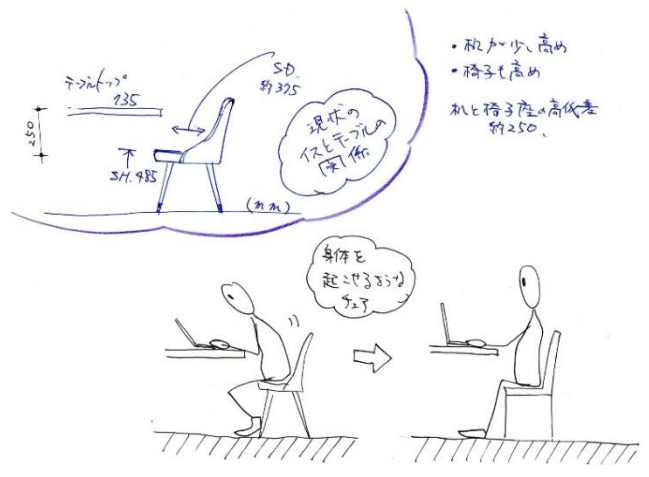
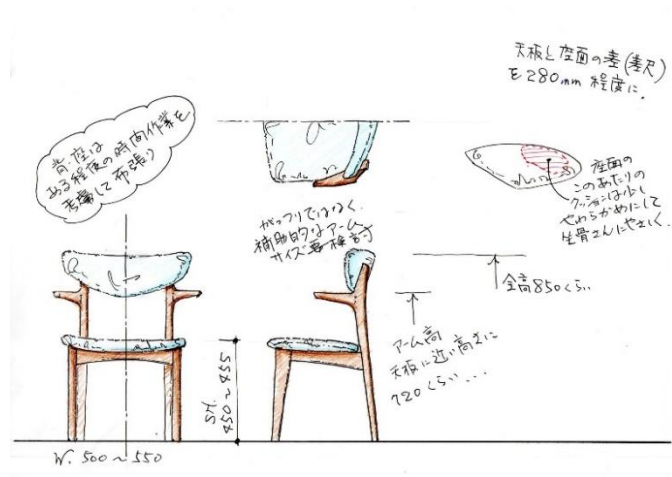
作家紹介



山極博史 (うたたね/家具デザイナー)

1970年大阪生まれ、宝塚造形芸術大学産業デザイン科卒業。カリモク家具株式会社にて商品開発に携わり、その後長野の松本技術専門学校にて家具製作を学ぶ。工房でのアシスタント等を経て、1999年「うたたね」を立ち上げ。コミュニケーションを大切に、手で考え、手でデザインし、日常に溶け込む家具や生活道具を生み出す。商品開発やデザインプロデュース、ワークショップや勉強会などを通じて、モノ作りを伝える活動にも取り組んでいる。第2回、第5回「暮らしの中の木の椅子展」など、コンペでの受賞も多数。旧生糸検査所にあったものから、KIITO CAFEのスツールをデザイン、製作した。

イスの製作風景 (写真左上：ヒアリングの様子／右上：サイズ計測の様子／左右下：製作予定のイスのラフスケッチ)



イスの製作にあたって

展覧会に向けてさまざまなモデルの方に協力いただき、製作のために個別にヒアリングを行いました。上記のようにヒアリングの中で使用する目的(働き方や使い方)、使用者の癖を探り、その人に合ったイスを家具デザイナーの山極博史さんに製作いただきます。例えば、〈体格の大きい長時間のデスクワークを行う人のためのイス〉では、座面の手前と奥とでクッションの堅さを変えることで腰への負担を軽減し、正しい姿勢で作業を行えるように工夫。また、机の高さも計測し、長時間の作業でも疲れが出にくい形のイスを考案するなど、モデルに合わせて山極さんが考え、製作したイスを展示します。